

令和6年度



第1回学校運営協議会



日時：令和6年7月3日（水）10:00～11:30

場所：北海道函館高等支援学校 会議室

令和6年度 第1回函館高等支援学校 学校運営協議会

- 1 日時 令和6年7月3日（水） 午前10時から午前11時30分まで
- 2 会場 北海道函館高等支援学校 1階会議室
- 3 本日の予定

- (1) 副会長挨拶
- (2) 校長挨拶
- (3) 学校運営協議会の内容と設置要綱について【教頭】 (別紙)
- (4) 組織構成、事務局、会長の選出について【教頭】 (別紙)
- (5) 学校運営について【校長】 (別紙)
- (6) 今年度の教育活動について【教頭】 (別紙)
- (7) HKS サポートーズの発足について【青田副会長】 (別紙)
- (8) その他

<出席者>

- ・北海道教育大学函館校 細谷一博
- ・ファーストナレッジ株式会社代表取締役 青田基
(北海道CSアドバイザー)
- ・函館市地域包括支援センター亀田 有川祐樹
- ・株式会社ポラリス代表取締役 中村圭吾
- ・松陰プラザ 喜久川三希子
- ・中小企業家同友会障がい者問題副委員長 小林裕司
(株式会社サンライト代表取締役)
- ・石川町会長 山崎敏昭
- ・桔梗町会長 川井博光
- ・PTA会長 相原香織
- ・校長 源一広
- ・事務局（教頭） 西田典央
- ・事務局（総務部長） 蛭沢和音
- ・事務局（記録） 鳴海潤一

(1) 副会長挨拶

青田副会長挨拶

(2) 校長挨拶

校長挨拶

(3) 学校運営協議会の内容と設置要綱について

【西田教頭から説明】

(別紙説明あり)

(4) 組織構成、事務局、会長の選出について

【西田教頭から説明】

別紙一覧

新会長を中村圭吾様にお願いしたい。

(全員の拍手で承認)

(5) 学校運営について

【源校長から説明】

昨年、学校経営計画を承諾いただいた。

全員参加の学校運営が基本。

進路等についても見ていただきたい。

函館マラソンボランティアの記事も見ていただきたい。

(6) 今年度の教育活動について

スライドで次の教育活動を説明。説明者は、西田教頭

- ・ハコカフェクローバー
- ・花かいどう、グランドの草取り
- ・函館マラソンボランティア
- ・地域清掃（1年生が5月に実施、事前学習で山崎町会長、川井町会長のお話を聞いた。）

(7) HKS サポートーズの発足について

【青田副会長から説明】…別紙資料

- ・コロナ渦で一時、中断はしているが3～4年前から設立準備会を開催している。
- ・学校運営協議会はあるが、学校をサポートしていこうというもの。
- ・目的について意見を伺いたい。
- ・学校支援、生徒支援、生徒との協働ボランティア活動等が目的。
- ・個人、団体が対象。
- ・会員証を発行したい。
- ・退会は自由。
- ・運営費は今のところなし。今後道からの補助や企業の寄付などから出るかも知れないが、

現在はわからない。

- ・コーディネーターと事務局的な立場の方がいると良い。
- ・募集や育成も担っていく。地域資源を使う際のつながりを保っていく。
- ・学校での活動場所の設置は可能か？
- ・設立予定日は未定。設立後は総会の開催予定。
- ・ゆるくやる。できる人ができるときにやるとイメージでどうかと思う。(校長)

【委員からの意見】

- ・コーディネーターが核になると思う。
- ・大学生達からすると、学校教育現場を知る、子供と触れ合うというのは良いと思う。函館高等支援は高校生、つまり大人なので、何を求めているのか？共生社会に向けて、“学校を中核とした町作り”ということのかなと思う。国の方針とも合っている。(細谷)
- ・キャッチフレーズは「地域と子どもの協働」「共生」「共育」「共に働いて共に育つ共に生きていく」など。
- ・目的は、いろいろな地域の人たちが参加してくれると思って、それがつながった時に効果がでるのではない。参加してくれる方が参加したいと思える、自分も何かを得られるようになると良いと思う。
- ・地域包括ケアシステムをさらに進化させたものが、共生社会である。高齢者を子供に置き換えたときに、子供版の地域包括システムのようなイメージではどうか。ただし、高齢者とニーズは違うので、教育の在り方に基づいた、キャッチフレーズやキーワードにできないか？
- ・発達障害のある生徒がどうやったら社会資源になりうるかを知ってもら。関わり方や特性の理解など、もっと、発達障害のことを知ってもらいたいと思う。
- ・養護学校を卒業した姉がいるが、社会とのつながりが無い。地域で大人と関わってからのの方がしっかり地域に出ることができると思う。
- ・一般の方は学校の手助けというより、子供のためなら一肌脱ぐよと言う感じだと思う。ありがとうと言われることで参加者が「よっしゃ！」と思っていたら良い。「卒業後の居場所」に共感してくれる人。
- ・高齢者と共に向き合って、侑愛会などつながりながら、地域包括亀田センターとも同じ方向を向きながら取り組んでいる。高齢者の孤独死があり安否確認、障害者との交流、保育園との交流など、前に進んで行けたらいいと思う。向こうは待っている状態。保育園とは交流は進めたいと思う。校長もそういった考えていたら良いと思う。
- ・町会の行事「包括支援センターよろこび」さんの敷地を活用。支援センターは高齢者だけが対象ではない。野菜を売ったりできなかつたところ、場所の提供を快諾していただいた。企画は包括センターで、活動は子供達。地域の方は、「皆さんが来ていいよ。」と言っている。今年度は声を掛けていなかったが、協力をお願いしたい。
- ・居場所を作ること、働く場所を作ること。働くことは知識の蓄積である。共に生きていくこと。「きょうどう」は「共に」の方かなと思う。何かぶれないキャッチフレーズはないかと思う。
- ・人とつながりたいということは、地域。学校、企業が繋がって、子供達の役に立つことを考える。参加したいと思えるような、自分も何かを得られるというメリットがあればよい。
- 「地域・学校・企業がつながって子供たちのためにできる事を共に考え、できる人たちでやってみるコミュニティ」
- ・情報収集場として、PTAの方にも参加していただきたい。悩みを打ち明ける場所であればと思う。
- ・ゆるく保護者の方に全員、入ってもらいたい。

※アイデアをいただいたので、この後は設立準備委員会に協議をまかせ、8月の設立をめざすということで会を終えたい。

(8) その他

【中村新会長挨拶】

就労支援に関わっているが、この学校に来たいと思えるようにしていきたい。
この会を大事にしていきたいながら、進めていきたい。